

食のリスクコミュニケーション・フォーラム 2026 (4回シリーズ)

『市民の安全・安心につながる食のリスクを議論する』

https://nposfss.com/schedule/risk_com_2026/

第1回テーマ：食品安全の基本～ハザードとリスクは異なる概念

【開催日】2026年4月18日(土) 講演会 13:00～17:00、懇親会 17:15～18:30

【開催場所】東京大学農学部フードサイエンス棟中島董一郎記念ホール(ハイブリッド開催@Zoom)

東京都文京区弥生 1-1-1 (最寄り駅:東京メトロ南北線東大前駅)

<https://www.a.u-tokyo.ac.jp/campus/overview.html>

* 事前参加登録者には開催前日までに Zoom 会議 URL をメール配信します。

【主催】NPO 法人食の安全と安心を科学する会 (SFSS)

【後援】消費者庁、東京大学大学院農学生命科学研究科

【賛助・協賛】キューピー株式会社、旭松食品株式会社、カルビー株式会社、

株式会社セブン-イレブン・ジャパン、日本生活協同組合連合会、サラヤ株式会社、東海漬物株式会社

【対象、定員】食品関連行政の担当者、食品事業者の広報・お客様相談・品質保証担当、リスク研究者、メディア関係者、消費者団体・市民団体、栄養士、学生など 定員：会場 70 名、オンライン 100 名

【参加費】3,000 円/回 (事前に納付いただきます)

* SFSS 会員、後援団体、協賛社、メディア、栄養士、学生は参加費無料

* 懇親会は参加費 2,000 円を当日現地にて徴収します

【参加申込み】第1回の参加申込期限：4月17日(金)

参加費無料の方(会員、後援/協賛、メディア等) ⇒ <https://forms.gle/jCN4ARps3bbNS95v7>

参加費有料の方(非会員、クレジットカード・コンビニ払い) ⇒ <https://sfss-event-20260418.peatix.com/>

【お問い合わせ】SFSS 事務局まで (info@nposfss.com)

【本フォーラムの主旨、開催概要】

毎回、食のリスクに詳しい有識者をお迎えし、**講師 3 名 (各 50 分) + 総合討論 (70 分) : 13:00～17:00** の構成とします。総合討論では、市民の安全・安心につながる食のリスクコミュニケーションのあり方について、会場からの質問に講師が回答する形で議論します。

【各講師のご紹介&講演要旨】 * 講師/演題は予告なく変更の可能性があります。

① 山本 茂貴 (公益財団法人食の安全・安心財団 理事長)

『食品のリスクアセスメント』

食のリスクアセスメントは4つのステップを踏んで行います。その4つはハザードの特定、ハザードの特性評価、ばく露評価、リスク判定になります。身の周りには、病原菌による食中毒、カビ毒、残留農薬、食品添加物、加熱調理で生じる有害物質など、ヒトに危害を及ぼすさまざまな危害要因があります。この危害要因をハザードと言います。危害要因の特性が分かっただけではリスクの大きさは分かりません。ヒトが感染する確率や日々の食事から摂取する量の「ばく露評価」がリスクを大きく左右します。まずはハザードとリスクは異なる概念だと知ることがリスク評価の第一歩となります。今回は、食品の微生物学的リスクアセスメントを中心に紹介します。

② 小島 正美 (元毎日新聞編集委員)

『メディアのリスク報道のどこが問題か』

記者として、リスク報道に携わって約30年。記者の考えるリスクと専門家の考えるリスクがそもそも異なるため、多くの専門家から見れば、新聞やテレビのリスク報道はリスクを煽る面が強いと映る。いったい、どこで食い違いが生じるのか。読み手にリスクが的確に伝わる「リスク報道のガイドライン」をつくる必要がある。そのガイドラインの案を示したい。

③ 楠見 孝（京都大学 特定教授）

『ハザードとリスクの区別から考えるリスクリテラシー教育』

市民が食品の安全性を判断する際、ハザードとリスクを区別する難しさの背景には、①確率の理解の難しさ、②メディア情報を理解する際の認知バイアス、③科学的安全性と消費者の不安とのギャップがある。本講演では、第一に認知心理学の視点から食品リスク認知のプロセスを紹介し、ハザードとリスクの混同によって生じるバイアスを説明する。第二に、批判的思考(システム 2)によって直観的判断(システム 1)を修正し、適切なリスク認知と行動を促すリスクリテラシーの役割を論じる。さらに、リスクリテラシーを学校教育や社会教育を通じて育成する重要性を示し、メディア、行政、地域社会が連携して市民の理解を支える必要性について述べる。

以 上